



玉子

特 別
チ 12
3656
23



三輪の板山本申巻ハ程もあく
初瀬川ももほきよくわく

詞

五人昌是くや初瀬川よ蒸てん

心静よ兼務尸さくやと思ひん

程もあきみれとまももや初瀬川

乃ほまききさく歌

舟人も旅をくふもる大崎の備

ああ〜く〜あ〜く〜
其のく〜く〜へ乃果〜も
あ〜あ〜波のよ〜人何〜
あ〜あ〜月乃見〜
た〜我ひとわ
見な〜か志〜も袖〜
昔〜秋のな〜

むらさきくわぐくは川聖を
きひくも人もあつらん
かともなを浮舟のちをたえ
はあてのあきたくひおぐ

書

しきやあは川の山川の
深くくももあふは若留
はくひをちいもあふ舟
持さる

人を二獲ハ女なわらも
人あつてまひうは獲ハは

初瀬寺ふまうてく家老なわ又

は川の所くなまあ

海を小舟初瀬乃川と渡をく

川聖の江くあよ不害ハ

あつてはひうとく
美盛小舟

初瀬とはいふべきなるめは

なまの海一志なるし又其類ひも

波小舟^上こゝろの習のあるや

りや何ぞおろおろわも先づ

さよおわりし^上かひ

こぼくまこはぬ山づく風も

しはぬあな^上の影もよか

ひかおきうあききも

うく川乃浦半乃跡めまそく

た^上ひあや面^上や川音やえ

里^上はくも真物^上おろき^上乃^上戸^上ふ

はくなる^上将^上を^上お^上き^上わ^上ま^上よ

残^上す^上夕^上う^上船^上づく^上か^上く^上て^上は^上堂^上ふ

糸^上り^上は^上く^上く^上補^上乃^上落^上山^上も^上ま^上の

あゝわ四あ乃跡めもあなあや
あゝのうよと幾うまお二本乃
移よ流きふくわぐ 是う

二まとれ移まてんくくく

流流ん 黒 ぬい二本お移まて

ふひくるうや之奉乃移のうま

とを移すいふは河のへ子男を

見まうやとなは何ともま神ん

吉身よそらう 黒 是く光源氏お

いしへあは流くお内付くお

初瀬さのまうてたまのひー媛

おをともあ見まひの流く一奇なるわ

ともよあしれとたほーめして

流流よく吊ひ折ひく 序月 業や

中

うらわゆる人を初瀬の山下風
そそくおちて露もなぐさるも
あこみ秋叶葉乃方も朽ちて能
うらめやうらみ人をも
世をも恨み人をも世をも
おもひ思ひたれ方もはなれぬ
むくひ乃飛や散る乃うまなふ

中

たち志も滅悔のち穢あひひ
わきうへ里若もはあ乃思ひよ
むさひ愛いこりあや乃わ
出依玉とんるまをほめとも
かころよ私をほくうけも
たかみやとよあ桃を籠り
心はまぬ乃たさうはるる方

